

**高知県労連**

2010年3月25日発行NO.119  
 発行：高知県労連書記局  
 住所：高知市丸ノ内2-1-10  
 高知城ホール3F  
 ホームページもご覧下さい。



# 非正規社員の均等待遇 正規社員化を

郵産労・早朝集会

三月十八日(木)、「非正規社員の均等待遇と正規社員化」を求め、郵産労高知支部が早朝集会を中央郵便局前で行いました。県労連加盟組織などから、約二十名が支援に駆けつけました。

開会の挨拶では、郵産労高知支部の筒井委員長は、「非正規社員は、賃下げや雇い止めを怯えながら仕事をしており、郵産労は非正規社員の駆け込み寺になっっている。郵産労の運動もあって、亀井大臣も非正規社員の一〇万人正規化に踏み切る構えをみせている。今後も運動を大きく広げて行く。」と決意を語りました。郵政グループで働く

非正規の社員は〇六年からの三年間で二倍近くまで膨れあがっています。そのほとんどが年収二〇〇万円以下のワーキングプアといわれています。雇用を守り、くらしを守っていくことが公的サービスの本来あるべき姿ではないでしょうか。

十八日の午後には、郵産労、県労連、公務労組連絡会で郵便事業会社に対して「非正規職員の

均等待遇と正規化」の申し入れを行いました。

## NTT前でも宣伝実施

三月十七日(水)、NTT帯屋町支店前で、県労連と通信労組を中心に早朝宣伝を行いました。県労連を含め、民主団体から十一名が参加しました。

十七日、十八日は、全労連の統一行動日であり、それに合わせた宣伝を行いました。

NTTは五十歳を過ぎた社員を一度退職させ、三〇%賃金をカットしたうえで、一〇〇%出資の子会社に再度雇用すると



いった不当なやり方を続けています。また、退職に心じなかつた社員をみせしめ的に遠隔地へ配転しました。これらを通じて、NTTは十一万人もの労働者のリストラを実施しています。子会社でも、非正規などの有期雇用を増やし、労働者を使い捨てる経営方針に力を注いでいます。NTTは現在、九・六兆円もの内部留保を溜め込んでいます。内部留保の僅か数%を切り崩すだけで、労働者の雇用は守られます。

今後はNTTだけではなく、大企業に社会的責任を果たさせる運動を県労連としても強め、世論に働きかけを進めていきます。

## 針路

私の息子(次男)は現在山田高校二年生。ついに来年度より公立高校授業料が無償化されます。月額九千九百円の授業料負担がなくなります。たいへんうれしいのですが、恩恵を受けるのはわずか一年間(もつと早くして欲しかった...)。◆

しかし、高校を卒業した子どもたちの前には大学の「世界一の高学費」が待っています。一九七〇年、国立大学の初年度納付金はいくらだったか覚えていますか？(現在五八歳の方が大学へ入学した年です。)なんと一万六千円！(決して月額ではありません。年額一万六千円だったのです。)◆そして現在は八十一万七千八百円！なんと五十一倍になっています。◆消費者物価は約三倍、大卒初任給は約二倍にしかかっていないのに国立大学授業料のこの異常な値上がり。「夢をあきらめるな！」かつこいい言葉をかけるためには学費無償化がどうしても必要です。財源はあります。在日米軍への思いやり予算も含めて、日本は軍事費四兆七千億円です。◆「教育無償化は平和への一里塚」。これは私が考え出したスローガンです。でも使用料は取りません。皆さん、どんどん使って広めてください。(西)



# 地域の活性化を目指し 自治体キャラバンを実施

県労連は二月十五日～十九日にかけて自治体キャラバンを行いました。公契約・最賃・国の出先機関の統廃合問題について自治体へ申し入れを行い、西は四万十市から東は奈半利町の合計十六市町村を訪問しました。

公共事業の入札は、過度の競争により労務単価が下がり続けています。それによって地域の消費が落ち込む「デフレスパイラル」にはまり込んでいます。また、国の出先機関の統廃合・郵政民営化により地域から法務局や簡易郵便局が無くなり、利用者の利便性の低下だけではなく、地域の疲弊に繋がることも懸念されます。

## 地方分権問題で県庁詰り

三月十二日、県労連と県国公との連名で「くらしをまもる行政の確立」の要望書を県に提出し、話し合いを行いました。分権改革委員会の一連の勧告について、国と地方の役割分担や形がどうなるうとも、地域が成り立っていくような論議がまず必要という点ではほぼ一致しました。県国公は、地域の安全や暮らしを守るサービスをどう確保していくの

首長が地域の労働者のくらしを守るために地元業者優先の姿勢を示しました。それに絡んで最低賃金についても現状では低すぎるという声が出されました。国の出先機関についても地域に密着した機関の存在はそれだけで住民の安心なくらしに繋がるという意見が圧倒的に多く、県労連としてもこの声を国へ届けて行く方針です。

今後も、最低賃金の大幅引き上げや公契約条例の制定、国の出先機関の維持によって地域労働者のくらしを守り、安心・安全のサービスで地域の活性化を国と自治体へ求めていきます。

かという観点で運動をしており、すでに、十四の自治体議会で決議されています。地域の安全や生活の維持のため、国が担わなければならないこと、広域的な視点で対処しなければならぬことは沢山あります。地域の視点を取り入れ、協議を尽くしながら政策を進める必要があります。

### 3月～の予定

- 3月26日(金) 講座『労働組合とマネージメント』(18:00～、共済会館)
- 4月2日(金) 講座『労働組合と経営参加』(18:00～、高知城ホール3F)
- 4月10日(土) 県民集会・国民大運動総会(14:00～、高知女子大学)
- 4月15日(木) 後期高齢者医療制度廃止・昼休み集会(市役所前)
- 4月16日(金) 講座『労働共済と福利厚生』(18:00～、高知城ホール3F)
- 4月23日(金) 講座『労働相談と労災問題』(18:00～、高知城ホール3F)
- 4月28日(水) メーデー前夜祭



# 組合の姿を広く地域へ 須崎労連 何でも相談会

三月六日(土)、須崎市中心部にあるショッピングセンターゆたかで、須崎労連、県国公、県労連が『なんでも相談会』を実施しました。

県労連がこの春闘で重視をしている地域労連の活性化の提案を受けて、須崎労連が中心になって計画したものです。県国公が毎年二



回行っている「行政なんでも相談会」と県労連の労働相談とをセットにしたものです。

労働相談はもちろん、教育、登記・相続、年金やデジタルなどの相談を受け付けました。須崎労連から四名、県国公から八名、そして県労連からは三名が参加しました。

十三時から十六時までの相談時間でしたが、年金

相談四件、登記・相続相談三件、労働相談一件の合計八件の相談が寄せられました。傾向としては高齢者の年金問題や、相続などといった相談が多く、高齢化が進む地域の現状がうかがえました。

県労連は今後も、地域での相談会を通じて労働問題の解決や国の出先機関の統廃合反対についても住民の皆さんの理解を広げていくことになっています。また、市・県への要請運動も強めていきたいと考えています。

次はあなたの町に『何でも相談会』がやってくるかもしれません。

## 怪やん奮戦記⑨

二月、県労連・労働相談センターに寄せられた労働相談は十六件でした。相談者は女性七人、男性九人。雇用形態は、正規雇用九人、契約社員四人、派遣社員二人、パート雇用一人でした。相談内容は、①解

雇・退職をめぐるが六人、②賃金・不払残業三人、③パワハラ被害二人、④社会保険加入二人、⑤配転一人、⑥年休取得一人、⑦その他の相談一人でした。

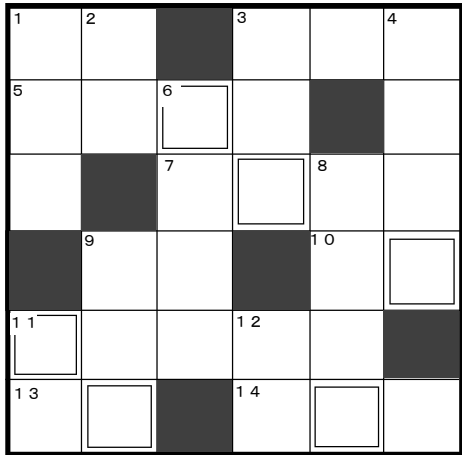
特徴的な事例を紹介します。二月初旬、労働相談センターに、株式会社企業(派遣先・製造業)で一年ごとの雇

用契約更新で六年間にわたり派遣社員として、働いてきた女性(三十代)から、「派遣先から三月末で雇用契約を打ち切るといわれたが、納得できない。」との怒りの相談が寄せられました。くわしく事情を聞き取ると、今、まさに、大きな社会問題となっている派遣切りそのものではないかと訴えています。

まず、問題なのは、派遣先が直接の雇用者でもないにもかかわらず、雇用契約の解除(雇い止め)を通告したことです。さらに派遣先は、①三年を超えて派遣労働(違法派遣)をさせてきた、②また、一部の部署の閉鎖にともない、正社員は解雇ができない。あなたにやめてもらうという、誰しもが耳を疑うようなきわめて身勝手な雇い止めの理由をつけてきていました。派遣先自らが、三年もの違法派遣の事実を公然として言明し、反省や謝罪をすることなく人

ごとのように、「法律違反だから、もうあなたは雇えない」などということ自体が本末転倒です。企業モラル低下の典型(例)です。一方、雇い止めを通告された女性は、いっしょう懸命働いてきたのに、なんでこんな打ちをうけなければならぬのかと訴えています。この女性は、現在、高知一般労組に加入をし、団体交渉を通じて、派遣先会社に直接雇用を求めたたいを果敢に進めています。

郵政グループ会社やNTT会社でも労働組合の要求や世論に押されて、多数の非正規雇用の人たちの正規雇用化が進んでいます。県労連・労働相談センターも労働者派遣法の抜本改正にむけ、また、非正規雇用の人たちの雇用を守るため、相談・支援活動を旺盛に進めています。



【ヨコのキー】① 神 ⑨早朝に〇〇  
 五十の〇〇を越す ⑩〇〇に  
 ③要点。法案— 陽に⑪—と氏  
 —⑤— 1 名を明記 ⑬〇〇の  
 号線を走行 ⑦氏の ⑭親類、親  
 祖先としてまつる 間たち

カギを解き、二重ワクに入  
 入る文字を並べ替えてでき  
 る言葉は何？  
 「タテのキー」①胸部を強  
 打し—骨折②飛車〇  
**クロスワードパズル**

**図書券プレゼント  
 チャレンジ**  
 《応募方法》  
 クロスワードの答え  
 と、今年の抱負、組合  
 名、住所、氏名、年齢を  
 記入の上、県労連書記  
 局宛にお送り下さい。  
 抽選で三名様に図書  
 カードをプレゼントし  
 ます。(ハガキ、FAX、  
 eメール)  
 締め切りは毎月二五  
 日になります。

**当選者の発表!**  
 十一月号・クロスワードパズ  
 ルの答えは「オトシダマ」でした。  
 当選者が抽選で決定しました。  
 おめでとーございます。当選を  
 逃した方もドンドン挑戦してく  
 ださい。  
 《当選者》  
 西森 美和子さん  
 (こうち生協)  
 矢野 みそらさん  
 (全司法)  
 山崎 悦子さん  
 (本山町職労)

に伴って、どの労働組合にも加入しない「独立型青年」の問題など  
 が出され、労働者同士の繋がりや仲間意識の大  
 切さなどを確認しました。土佐清水労連は地道  
 な活動を通じて、釣り大会やリーダー、反戦デ  
 モなどにも取り組んでおり、さらなる運動の発  
 展が期待されます。  
 今回は、二つの地域での討論集会でしたが、今  
 後はさらに多くの地域で討論集会を開催し、地  
 域運動の強化と発展に力を入れて行きたいと考  
 えています。



春闘学習では田口書記長が県内の情  
 勢について報告し、万年不況の高知で  
 は公共サービスを確保し、農林漁業・中  
 小企業の活性化が必要であると強調し  
 ました。そして県労連として一〇万枚  
 のビラの配布と、地域での労働相談の  
 開催、そして教育会館を地域運動の砦  
 として活用していくことなどを提起し  
 ました。  
 参加者の中からは「地域に一人から  
 でも入れる組合があれば、地域運動も  
 より活性化できるのでは」など貴重な  
 意見が出されました。また、公務の職  
 場からは、市外から就職する人の増加



**地域を運動の最前線に**  
 二月十三日の須崎労連を皮切りに、二月十八日には南国・香美労  
 連で、二月十九日には土佐清水労連で春闘討論集会を開催しました。

携帯サイトを  
 開設しました  
 ↑二次元バーコードで  
 今すぐアクセス!!

**学習会案内**

組合員として知ってお  
 きたい初級～上級まで  
 幅広い学習会を開催し  
 ます。組合初心者から上  
 級者まで皆さん気軽  
 にご参加下さい。

3/26	『労働組合とマネジメント』	18:00～ 共済会館
4/2	『労働組合と経営参加』	18:00～ 高知城ホール
4/16	『労働共済と福利厚生』	18:00～ 高知城ホール
4/23	『労働相談と労働諸法』	18:00～ 高知城ホール